

浄

monthly
JŌDO

土

January 2002

1



法然上人鑽仰会

ブロードバンドは、サービス品質で選ぶ。

世界をつなぐ、あなたをつなぐ
日本テレコム

ODNのADSLは最大1.5Mbpsの 超高速インターネット

※回線速度は、あくまでも理想値で保証されるものではありません。
また、提供局からの距離などの要因により変化することもあります。

コンテンツも充実

ODNの「ブロードバンドチャンネル」は、音楽やスポーツ、
エンターテインメントドラマ、料理など楽しい内容が盛り沢山。

さらに大幅値下げ！ 2,880円/月 24時間 常時接続

○初回費用6,500円～
○モデムレンタルの場合 500円/月
※NTT東日本・西日本の回線使用料と
して107円/月(1ヶ月)が別途必要です。
※記載の価格は消費税別
(平成13年10月現在)

サービス 提供エリア 拡 大 中

札幌・仙台・東京・立川・
国分寺・武蔵野三鷹・千葉
市川・川崎・横浜・浦和・
川口・名古屋・京都・大阪
茨木・豊原川・八尾・堺和
田・貝塚・堺・和泉・神戸
北九州(予定13年4月10日現在)

※上記のエリアであっても、ご通
信できない場合があります。詳し
くはホームページ、またはテレ
ホンサービスでご確認ください。

【提供エリア案内ページ】
☎0088-222-357

【提供エリア検索ホームページ】
<http://www.odn.ne.jp/j-dsl/>

ODNフレックADSLプランもあります。

初心者でも安心の サポートサービス

お問い合わせ
お申し込み

＜ODNサポートセンター J-DSL担当デスク＞
〔受付時間〕9:00～18:00(年中無休)

☎0088-222-375

日本テレコム ならではの 保守管理体制

インターネットは日本テレコム

ODN
Open Data Network

ODNのADSL
J-DSL
パーソナル

寺院紀行

スペシャル

寺に歴史あり。

人々に信仰あり。

日本の

心の故郷を紀行する。

新年明けまして
おめでとうございます
ございます



東京 七福神 めぐり



恵比寿さまの絵馬



大黒天の絵馬



心行寺鈴木定光住職

深川七福神 心行寺



福祿寿

参道左手にお堂が建つ



福祿寿



正寶院近藤泰嘉住職

下谷七福神
飛不動(正寶院)

本堂左手にお堂が建つ



恵比寿

恵比寿



本堂に祀られている毘沙門天



龍光院本堂



毘沙門天

深川七福神
龍光院

龍光院熊井康雄住職



心行寺 福祿寿

深川七福神

双修山養源院心行寺は元和2（1616）年に京橋八丁堀寺町に創立された浄土宗寺院。寛永10（1633）年に現在地に移転、当時の面影を残している。福祿寿は南十字星の化身ともいわれ、ご利益は長寿、人望福德。

〒135-0033 東京都江東区深川2-16-7 TEL03-3641-2566

地下鉄門前仲町下車徒歩5分

大黒天



大黒天



本堂脇にお堂が並んでいる



色紙を手にする
英信寺嘉藤哲也副住職

下谷七福神 英信寺



宗慶寺本多浄道住職

小石川七福神 宗慶寺

寿老人



本堂に祀られている寿老人



寿老人



飛不動 恵比寿

下谷七福神

龍光山三高寺正寶院、通称飛不動は享禄3（1530）年に修験僧によってひらかれた天台系修験寺院。恵比寿神のご利益は商売繁盛、喜結良縁、敬愛宮財、航海安全。本尊飛不動には航空関係者の参拝が多い。

〒110-0012 東京都台東区竜泉3-11-11 TEL03-3872-3311

地下鉄日比谷線三ノ輪駅下車徒歩5分

ほら穴を思わせるお堂だ

弁財天



元祖
山手七福神
蟠竜寺



蟠竜寺吉田秀雄住職

弁財天

下谷七福神
寿永寺



参道脇に像が祀られている



寿永寺澤煌礼住職

布袋尊



布袋尊

龍光院 毘沙門天

深川七福神

龍光院は慶長16（1611）年に雲光院塔頭として現中央区馬喰町に創建された浄土宗寺院。その後二度の大火を経て現在地に。毘沙門天は仏教の守護神である四天王の多聞天の別称で、ご利益は福德、勇気授福。

〒135-0022 東京都江東区三好2-7-5 TEL03-3642-3437

地下鉄大江戸線清澄白河駅下車徒歩5分



寺院紀行スペシャル

撮影／タカオカ邦彦
文／真山 剛

七人の多国籍な神々たち

お正月がやってきた。

昔は初春を迎えて、みんな一緒に歳をとった。おじいちゃんもおばあちゃんも、そして孫やひ孫まで、老若男女を問わず、みんな仲良く一つ歳をとる、みんな嬉しいお祝いがお正月だった。

東北出身のある友人は、いまでも年末には慌てて帰郷する。何でも年末の決まった日の決まった時間までには、必ず自宅に家族全員がそろそろきまりがあるらしく、何をさておいても帰っていく。

やっぱりお正月はいいものである。初詣にお年玉、お節料理に書き初め。この国の伝統が一番色濃く残るのがこのお正月だ。

そのお正月に、これまたお正月らしい企画を。ということで、今回は東京の七福神を巡る旅、いや旅では言い過ぎで、かといって散歩ではちょっと遠すぎるが、都内の七福神を巡ってみた。

ところで、皆さんは七福神を言えますか？

恵比寿、大黒天、毘沙門天、弁財天、寿老人、福祿寿、布袋の七



英信寺 大黒天

下谷七福神

紫雲山常倫院英信寺は慶長年間（1596年～）に現在地に草創された浄土宗寺院。三面大黒天は弘法大師御真作と伝えられる。ご利益は出世、開運、商売繁盛。

〒104-0004 東京都台東区下谷2-5-14 TEL03-3872-2356

JR鶯谷駅、地下鉄日比谷線入谷駅下車徒歩5分

人の神々がその答え。では、その七人の神々の出身国はどこ？ となるとグッと正解者は減りそうですが、いかがでしょう？ 日本の神が一人、インドと中国の神が三人づつというのが正解で、恵比寿が日本、大黒天、毘沙門天、弁財天がインド、寿老人、福祿寿、布袋が中国出身の神々です。全部正解した人は七福神巡りのプロといえそうですね。

さて、この七福神、その起源を遡ると中世室町時代の町衆の福神信仰にたどり着くようです。そして元をただせば、「お金」のようです。つまり蓄財観念が明確となり、福運とくに金運という現世利益を庶民が求めたわけです。うーん、今も昔もお金か。

で、最初の福神は恵比寿、大黒天の二神だけで、そこに弁財天、毘沙門天、布袋が加わり、さらに二神が加わって七福神となったようです。そしてこの「七」という数字で止まった訳ですが、そういうばお釈迦さまが生まれてすぐに歩いた時も七歩でした。七は聖なる数字のようです。

この七福神の最盛期はというと、江戸時代の中頃。一説には徳川家康に天海僧正が説いた『仁王経』の「七難即滅 七福即生」がきっかけともいわれていますが、お正月にこの七つの福神をお参りし、一年の福をいただくことが全国に広まりました。



宗慶寺 寿老人 小石川七福神

吉水山朝覚院宗慶寺は応永22（1415）年に開創された浄土宗寺院。都内でも珍しい極楽水と呼ばれる井戸水が今でも湧いている。平成に創設された小石川七福神の寿老人をお祀りし、そのご利益は学問と長寿。
〒111-0002 東京都文京区小石川4-15-17 TEL03-3811-3398
地下鉄茗荷谷駅下車徒歩6分

さて、七福神巡りが記されている現存する最古の資料はというと、東京目黒の蟠龍寺に残る、安永四（一七七四）年の石碑になります。この元祖山手七福神をはじめ現在十六の七福神コースが東京にあります。範囲を広げて関東一円で、四十六コース。もちろん全国各地にあり、その数はいったいどの位になるのでしょうか。

さて、今回巡った七福神は編集部推薦の七つのお寺。最古の七福神石碑が残るお寺、目黒の蟠龍寺は岩屋弁天で有名で、弁天さん、弁天さんと昔から慕われてきた。

また、七つのうち三つ入っている下谷七福神はグッと近代的に写真コンテストを七年間開催していました。

二つ入っている深川七福神は鈴掛け七福神として、土鈴七福神がぶら下げられる笹の葉の授与品が人気。

平成七年元旦からスタートした小石川七福神は、ここ十五年前位からの七福神巡りの多くの問い合わせに応えるように始まったもので、宗慶寺はもともと学問との関わりが深かったこともあり、寿老人を地元の彫刻研究家に新しく彫ってもらい開眼し、七福神が無事そろったという訳。

この様に、最近の七福神巡りブームはとどまる所を知らず、寺院によっては遠く、静岡、埼玉から観光バスのツアーがやってくる。はとバスのコースにもなっているお寺もある。また、心行寺は以前



蟠龍寺 弁財天

山手七福神（元祖）

霊雲山称明院蟠龍寺。通称弁天さんは宝永6（1709）年に現在地に改名再建された浄土宗寺院。岩屋弁財天は江戸裏鬼門の鎮守として知られ、ご利益は音楽、弁才（智慧、学問）、財福。

〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-4-4 TEL03-3712-6559
JR、地下鉄目黒駅下車徒歩8分

にNHKで放映され、翌日は長蛇の列。お正月用の土鈴の福祿寿が
たった一日で無くなってしまったほど。

もちろん、各七福神とも横の連携をとり、各種授与品も充実して
いる。なかでも下谷の英信寺は、その大黒様が弘法大師作とも伝え
られ、様々な授与品が並んでいる。そして、どの七福神でも行って
いるのが、色紙や朱印帳へのスタンプや朱印。とはいえ、お正月は
それこそ除夜の鐘とともに多くのお参りの方が見えられる。歳が明
けても参拝者がとぎれることがない。

そこで、深川七福神では朱印や授与品は正月十五日までと期間と
時間を限定している。お寺側もなかなか大変なのである。

さて、この七福神ブームの理由だが、東京の七福神はだいたいど
こも一時間から三時間位で一回りできるようになっている。ウオー
キングや軽登山が人気をあつめる中、お手軽でしかもご利益つきと
ならば、その人気も自然と高まるといったところだろうか。しかし、
多国籍の神々にそれぞれのご利益をお願いするこの七福神巡りが江
戸時代を最盛期に今日まで続いて来ているのは、この国ならではの
大らかな信仰心と現世利益への思いからなのだろうか。

それはともかくお正月には着物と下駄で近くの七福神を一回り、
などというのが、やっぱり日本のお正月!!



寿永寺 布袋尊 下谷七福神

正覚山得生院寿永寺、通称赤門寺は、寛永7（1630）年
に創設された浄土宗寺院。大正の大震災後東京府第一号の
特設墓地建設寺院でもある。布袋尊は実在の中国後梁時代
の高僧、布袋和尚がモデル。ご利益は子授け、子育て。
〒110-0011 東京都台東区三ノ輪1-22-15 TEL03-3873-2402
地下鉄日比谷線三ノ輪駅下車徒歩1分

浄土

2002/1月号 目次

東京七福神めぐり.....	真山剛・タカオカ邦彦	1
目次		9
「そう、だから法然」レポート		10
連載 民話をたずねて	石崎敬子	22
表紙の言葉		29
シリーズ詠唱 寺院便り	東京金蔵寺	30
仏教歳時記		33
響流十方	袖山榮輝	34
くすり箱	市川真人	38
コラム	佐々木美冬	46
Jフォーラム		47
浄土誌上句会.....	選者＝増田河郎子	48
マンガで楽しい仏教用語.....	藤井ひろし	51
編集後記		52



表紙題字＝浄土門主 中村康隆 祝下
アートディレクション＝近藤十四郎
協力＝迦陵頻伽舎

オープンセミナー

そう、だから法然 レポート

出演

平山郁夫
梅原 猛
井上洋治
阿満利磨
成田有恒
平野啓子
石上善應

東京有楽町のよみうりホールで行われたオープンセミナー「そう、だから法然」は画期的なイベントであった。浄土宗主催のこのセミナーに定員を遥かに越す人々が集まり、立ち見も出る盛況となった。

出席者の豪華な顔ぶれ、演出の良さもあり、十年後に迎える法然上人八百年御遠忌に向けた第一弾はまず成功裏に終わったといえる。

本誌はこのセミナーに参加した方々に忌憚のない感想を寄稿していただいた。

平成13年11月21日(水)
よみうりホール
主催・浄土宗

「そう、だから法然」拝観記

大正大学講師

林田康順

どこまでも続く一筋の海岸線。一陣の風が吹いて、一粒の白い砂が右から左へかすかに動く。風が止み、海辺は再び深い静寂へと帰ってゆく。何事もなかったかのように。

人の一生など、一粒の砂が右から左へ動くことと同じではないのか。海岸は、いつまでも同じ海岸であり続けるのだ。

この心のなかの風景に囚われ、悩まされ続けたのが、私の十代であった。

いかにしても避けることのできない死。死によって必ず終わりを迎える生。その現実を死刑囚のように背負って生きていくことの、むなしさと悲しさ。私はこの思いに次第に追いつめられていった。

だがある日、この思いから逃げようとする

...

ることをやめて、死というものと向かい合
って生きることを決意した。それがキリス
ト教に入信するきっかけであった。大学一
年生の時であった…。

「かたりすと」平野啓子さんによる荘重な朗
読が、立ち見が出るほどによりみうりホールを
埋め尽くした熱心な聴衆の耳に響き渡る。カ
トリック神父・井上洋治師著『法然・イエス
の面影をしのばせる人』をもとに編まれた、
井上神父を壇上にお招きする朗読の冒頭であ
る。

大本山増上寺法主・成田有恒大僧正台下を
はじめとする諸師による見事な語り、同じく
大本山増上寺式師・楽師を中心とした荘厳な
演出。法然上人の限りなくやさしいお人柄が、
聴衆一人ひとりの心をあらためてつかむこと
となった一日であった。

多くのプログラムの中、私の心をとらえた
のは、なんといっても井上神父の重々しい語

りであった。淡々と語る神父の姿からは、観念としての死をもてあそぶのではなく、実存として、真剣勝負の場としての「この私の死」に真摯に向かい合い、取り組んでこられた宗教者としての神父の姿がみなぎっていたからであった。

井上神父は、ご自身の過去を包み隠さずに語られた。「私は、人々の痛みを聞かないように生きてきた」と。奥深い吐露である。カトリックの教えに反し、教義上は神の救いにあずかることなど叶わない墮胎や離婚。けれども、井上神父は、やむにやまれず墮胎や離婚をした人々とも逃げることなく向かい合ってきた。その方たちの心からの叫びをしつかりと受け止めてきた。

一九五〇年、フランスに渡った井上神父は、八年ほどの修道院生活を通じ、日本人である神父自身の中に流れているものと、二千年にわたって積み重ねられてきた西欧文化の重みとのギャップに苦しまれた。そして、長年培



井上洋治師

われてきた日本人の心でイエスの福音をとらえなおさなければ、私たちの心の琴線をふるわせることはできないと確信し、日本に帰国した。そして神父は、自分の血の中に流れているものを、はっきりと自覚することの必要性を感じて、日本文化に関する著作を読みふけていたという。

朗読は続く。

そんな時であった。法然上人が書かれた『選択集』（第三章・私釈段）の一節に出会ったのは。

寺院への寄付ができなくとも、高度な勉強知識がなくとも、戒律を守り抜く強い意志がもてなくとも構わない。私たち凡夫は、ただ「南無阿彌陀仏」と念仏を称えさえすれば、それによって必ず救われるのだ。この法然上人の確信に、私は強く心打たれたのである。まさに棍棒でなぐられたような衝撃をおぼえたのであった。

その主張のうらには、民衆の苦しみを共

に背負い、共に救われようとする、烈しい、しかし、限りなくやさしい法然上人の姿がにじみ出ているように思えるのである。

井上神父は続ける。「お前はダメだ」とは法然上人は決しておっしゃらないと。そして、東大寺大仏殿を焼き払い仏敵とされた平重衡の手に手をとって共に泣く法然上人のお姿を、そして、養和の飢饉に苦しまれる庶民や今にも手足を切り落とさんばかりの熊谷直実、あるいは、高砂の浦の漁師夫婦や室の泊の遊女といった人々の悩み・苦しみをわがごとく感じ、共に悲しみ、共に泣かれる法然上人のお姿を切に訴えられる。おそらくその訴えは、これまで神父ご自身が、多くの信者の悲しみをわが身に受け止め、共に涙してきたことの証であらう。

朗読は続く。

この法然上人の姿のうちに、私は、古代

...

ユダヤ教社会で、差別され、救いの望みを絶たれ、哀しく重い人生をとほとと歩んでいた庶民を、なかでもとりわけ差別の目で見られていた娼婦やハンセン病の人たちを迎え入れ、楽しく一緒に食事をしていたイエスの面影を垣間見る思いがしたのである。イエスを求めながら、キリスト教の道を今日までずっと歩み続けてきた私であるが、その衝撃以来、法然上人の後ろ姿は私の心から一度として消え去ったことはない。

カトリック神父としてイエスを求めながらも、法然上人の後ろ姿を絶えず心に思い描き、ある時は、イエスと法然上人のお姿とを重ね合わせてきた井上神父。最後に神父はこう結ばれた。

「もし来世で、上人さまにお会いできたら、高砂の浦の漁師夫婦や室の泊の遊女の横で、私も共に涙してみたいものだと思っています」と。

合掌

「そう、だから法然」に思うこと

総本山知恩院布教師

日下部 鎌旨

大衆小説の巨匠『大菩薩峠』で知られる作家、中里介山氏は法然上人を讃仰され、又、論じられた。『法然』『法然行伝』『黒谷夜話』など上人に関する作品も多く残している。

介山氏が法然上人を小説にする場合、多くの苦勞があつたという。

法然上人というお方は、私たちが考えている以上に、もつともつと偉大なお方であつて、作家の人たちでも、親鸞聖人や日蓮上人ならば比較的描き易いのだが、法然上人となると、なかなかそうはいかない。ただ法然上人そのものを小説にしようとして取り組んだのでは、とても描けるものではない。それは山でいえば偉大な偉大な富士山を描くようなものであつて、富士山だけを画面におさめることは無理なものだ。手法としては、雲上の高

...

峰だけを描くとか、裾野の風景を描くとかで、それで富士の雄大さを示すより外ないのであつて、法然上人を描くのもこの手法以外に手がない。周辺を描いて、そこに法然上人の偉大さを示していく、それほどに上人は偉大であり、小説家の手にあまるものである。

まさに法然上人讃仰である。

十一月二十一日、浄土宗主催のオープンセミナー「そう、だから法然」が開催された。パンフレットの案内文より、「法然上人讃仰の集い」、多くの講師による「法然上人の偉大さを、周辺を描いて示していく会」を私なりにイメージし、期待して参加した。

そして今、編集部から当イベントに対する感想を書くように求められた。肯定的、好意的な感想を、との依頼ならば断るつもりだったが、「率直な感想、意見」を申し述べてよいとのこと。ならば、いくつかの疑問を交えつつ述べてみたい。

まずプログラムメニューであるが、三時間

という限られた時間に詰め込み過ぎではなかったか。出演は、平山郁夫師、石上善應師、平野啓子氏、井上洋治師、阿満利磨師、梅原猛師、そして成田有恒台下である。この錚々たる方々の話を東京の真ん中で、千円の入場料で聞くことができるのだから、よみうりホールが超満員となったのも当然といえよう。

平山郁夫師、石上善應師の対談：平山師が二祖対面図を画かれた体験、その時の思いなどを通し、美術的な観点から法然上人を描写してくださるものと思っていたが、アメリカのテロを意識し過ぎたのか、テーマが漠然としたまま進行した対談だった。何度か出た「無心」と念仏のつながりは私には理解できないままである。

平野啓子氏：講師の著書の一文を、又、法然上人のおことばを「かたりすと」すなわちプロが語ってくれた。男性講師オンパレードの中で、一瞬女声は新鮮だった。が、聞くほど、「違う」と思った。法然上人の教えの重

...

さは、たとえ上手な朗読でも、それだけでは伝わらないだろう。法然上人はどんな声だったのだろうかと思つた。

井上洋治師：直接お話を伺うのは初めてである。以前増上寺での講演がすばらしかったことを聞いており、又、『法然―イエスの面影をしのばせる人―』他を読み、実は、今回最も期待していた。カトリック神父が法然上人に憧れ、魅せられている。『選択集』のことは感動をもつて語ってくれた。期待通りであった。

阿満利磨師：『徒然草』の「目の醒めたらんほど念仏し給え」「往生は一定と思えば一定、不定と思えば不定なり」の二つのことばをユニークかつ鋭い視点で説いてくれた。今回のテーマ「そう、だから法然」の前に記される「こんな時代だから、こんな人間だから」のテーマに最もふさわしい講師であったと思う。

井上、阿満両師のお話をもっと聞きたかつ

た。正直に申せば、二人の講演だけでよかったのではないかとさえ思っている。

梅原猛氏：昨年以來、梅原師による法然上人の話聞くのは五度目である。「法然の哀しみ」については、「浄土」誌上でも、各種研修会でも取り上げられ、多く批判もある。なぜ、又、梅原師なのか。上人を鑽仰しているようで、実は「法然上人を自分の世界に引きずり下ろし納得している」「茶化している」話に聞こえたのは私だけなのだろうか。浄土宗は早く、梅原師を卒業しなければならぬ。成田有恒台下：最近よくお話される内容だった。「周辺から」ではなく、正面から法然上人を鑽仰していただける唯一の方であると期待したが、わずか十五分間で先の講師の話を「だから法然」とまとめ、語ることは所詮無理であった。

私の席の近くに、講師の話をずっと合掌して聞いている方がいた。お念仏を申すタイミングを待っているように見えた。



阿彌利摩師

今回、全体的に演出に凝り過ぎたのではないだろうか。声明、雅楽も有り難かったが、千百名全員で念仏を称えられたら、月かげや一枚起請文と一緒に唱えられたら、御法主の法話の前後に「同唱十念」があったら、もっと有り難かったと思う。

「この集いが少なくとも十年間、できれば年中行事として期待される定例講演会になることを願っております」（宗務総長）とのことだが、こんな時代だから、こんな私、人間だから、「法然上人を鑽仰する会」をこそ、強く望んでいる。

法然上人八百年遠忌／
記念セミナーに参加して

一般在家

亀谷雅哉

11/21のセミナーは基本的には大盛会で、まずは成功裡に進められたことに、関係者の

皆様のご苦勞に敬意を表する次第である。本稿では礼賛的視点でなく、私個人がセミナー等に期待するポイントを含め、感じたことを述べさせて頂く。

セミナーの一般的印象

沢山の人達が集い、一体感を持ってセミナーに臨まれたことに關しては、一言で言えば成功だったと思う。視点を變えると、八〇〇年大遠忌記念というキャッチフレーズからやむを得ない側面があるが、多分にフェスティバル的な色彩を感じた次第である。私の周囲でも随分と演出が凝っているなどの言葉を耳にした。特別な記念セミナーともなれば、どうしても関係者は意気込まざるを得ないであろうと思う。

特に私の法然のイメージは派手な布教スタンスでなく、民衆に根づいた地味さを真骨頂とする宗教人ではなかったかという気がするからである。

...

セミナーのあり方、考え方

私にとってはセミナーにおける先生方の講話、特に法話は感動、感銘することが大きいと、非常に得をした気がするし、一日の充実感を感じる、要するに感激的出会いなのである。

① その視点からすると、法話は一つか二つでいいからフェスティバル的なセミナーとは別に、年に二、三度法話を拝聴する機会があればと思う次第である。その際我々へのサービスの対応は要らず、手作りのでよいから佛教のころをしつかり伝え、説くことに腐心して頂ければ十分なのではないだろうか。

② 時々「在家佛教協会」のセミナーに参加しているので感ずるのだが、参加者全員で念仏、讃歌を唱和し、そして合掌をする機会をもつのは全体的な一体感と厳肅な気持ちになり、爽やかなものである。私自身の家系は日蓮宗なので、唱える文言は異なるが、しかし違和感は全然感じない。

今回のセミナー内容における私自身の印象

学者としての阿満氏はいつもの如く歯切れのよさと、思わず引き込まれるテンポのよさと話術が冴えていたし、一方の梅原氏は、氏独特の熱弁はTV等で拝聴している通りで、熱っぽいロマンチストの雰囲気は漲っていた。

宗教家の井上氏、成田氏ともそれぞれの視点から十分に説得力のある、示唆に富んだ話であった。

これらの中で、最も地味な存在であったが、私自身にとっては平山先生の話された内容が印象的であった。先生のお話のなかで特に興味を惹いたのは、絵を描くときに邪念なく無心で描画に臨まれるとき、最もはかどるし、いい作品も出来るとのことだった。私事で恐縮だが、私も下素人の下手な横好きで時々絵筆をとるが、一心不乱に向っているときが、最も出来がいいような気がしていたし、そういうときは寝食も忘れ、一気に描き進むのが

...

能率がよいことを実感していた。また逆の視点だが、手持ち無沙汰なときにとりあえず絵筆をとると、描き出すままに気が乗り出し、のめり込むことを感ずることがある。そう言う平静で充実した気持ちに浸れるよさが、絵の世界にはある。淡々と話されていたが、先生のお話は妙に説得力を感じた次第である。

「そう、だから法然」に参加して

曹洞宗僧侶

坂口大和

十年後の八百年遠忌に向けて、鎌倉新仏教の画期的な大転換の先鞭をつけた法然上人のお念仏の教えをもう一度学び直し、その深い人間性と限りなく大きな優しさの再発見を目指したオーブンセミナーに参加させていただきました。世界が、平和ではなく悲しく虚しい戦争で始まった二十一世紀最初の年に図ら

ずもこの様な大きなテーマの企画を実行なされた浄土宗門並びに関係者の方々の熱意と努力とに深い敬意を表します。

さて私は在俗出身の曹洞宗に属する一僧侶ですが、大学で仏教を学び始めた時から常に持ち続けてきた疑問があります。それは、何故日本の仏教には「これほど多くの」宗派が存在しているのか？ ということです。僧侶として仏教を説く立場になって、同じ質問を受けたときには「それは、お釈迦様の教えをより多くの人々に理解して頂くための方便なのです。」と説明しているのですが、本当は何か釈然としない気持ちがいつも心の奥に燃っているのです。お釈迦様が菩提樹下で悟りを開かれて、その大変に高度で難しい教え（仏教）を、多くの苦しみを抱えて悩んでいる衆生のためにお説きになろうと決意なさった動機は、苦しみ迷う凡夫を救済することであつた筈です。人間存在そのものが持つ普遍的な不条理に起因する、如何ともしがたい強

...

烈なる「自我への執着」と言う煩惱の束縛から一刻も早く救い出したい！ との強いお慈悲の一念であつた事と思います。

「上求菩提 下化衆生」の言葉は、まさしくお釈迦様の伝道の四十五年間のご生涯そのものです。翻つて、現実の日本仏教と自分自身とを反省すると「悟りと救い」というお釈迦様の仏教の二本の柱に決定的な乖離が起きている事に気付かされない訳にはいきません。もし本当に仏教が「難解な」教えであるのなら、二千五百年もの時間と広大なアジアという空間を超えて、人々の心から心へと伝えられる事は無かつたでしょう。仏教は誰にでも優しい教えです。

ところで、現代世界は社会構造がますます合理化・個人化（個別化）自由選択化が進んでいます。西欧的近代主義の文化は、個性の解放や自己実現すなわち個々人が美を通して至高の価値へ到ることや、個々人の政治的な解放による「完全な自由」の獲得という目標

を提示してきました。しかしこうした西欧的近代主義の文化の帰結は、暴力やボルノや空虚さや抑うつ感などの大衆的な広がりでした。

人類の歴史は、文明を持つことによって「俗なるもの」が強く権利を主張し始め「聖なるもの」を侵していく歴史でした。まさに現代世界では「聖なるもの」の価値が失われ、世界が全面的に俗化されています。人間の自我が肥大化し、際限のない欲望を充たすことこそが最も価値のある事だと、疑う気配すらありません。

大乘仏教における「阿弥陀如来」は、例えば『大無量寿経』にあるように法蔵菩薩が本願を立てて修行し成仏して阿弥陀如来となり、今も説法なさっているという、一層の「高み」つまり「聖性」の度合いをより一層強めた存在に登るためにゴータマ・ブッダの歴史的個性を切り捨てた姿として表されています。その阿弥陀信仰では、人々はこの「不浄な」世界（現実世界）を捨てて浄土に往生



する事を願います。つまりこの世界は「不浄なるもの」「否定されるべき俗なるもの」として把握されています。

本当に現代社会は「俗なるもの」の大洪水に見舞われています。神様や仏さまの物差しではなくて、欲望に曇った人間の物差しで判断し、世界が動かされています。どんなに科学文明が進んでも解決できない大問題を抱えて右往左往している今こそ、私たちは「世界を聖化する」行動を起こさなければなりません。だからこそ宗旨・宗派の枠を超えて、もう一度仏教サンガ（僧伽）を作り上げていく意志と行動力が求められていると思います。宗派だけの運動・行動ではなく、全ての仏教徒が連帯できる普遍的な実践の企画・提案を継続的に行っていくべきでは無いでしょうか。参加してこう考えました。

法然セミナー開催にあたり

浄土宗総合研究所

昨年は宗祖法然上人・大遠忌の十年前にあたり、二月にはテレビで法然上人の伝記が放映されました。また、数年前よりテレビコマーシャルに登場したり、昨年は梅原猛氏の『法然の哀しみ』がベストセラーにもなるなど、近年、法然上人がメディアに大きく取り上げられるようになりました。

そこで浄土宗では、大遠忌へ向けて十年間、法然上人の存在感をより高揚させるべく、法然セミナーの開催を決定いたしました。

講師として、画家の平山郁夫師、梅原猛師、キリスト教神父の井上洋治師、「法然の衝撃」の著者・阿満利磨師、そして増上寺法主の成田有恒師をお迎えする運びとなりました。

当初は全講師によるシンポジウムを検討しておりましたが、この場合、仕切役の能力や

...

その場の雰囲気によって流れが左右されやすく、第一回目の企画としてはふさわしくないと考え、各講師に講演をしていただき、最後に成田法主がまとめるという形式にいたしました。内容については、テレビ放映での法然上人の「おことば」に対する問合せが寄せられたことから、法然上人のおことばを朗読し、そのあとで講師に解説してもらおう。後半は法然上人の人間性を語っていただくことにいたしました。そして、朗読を元NHKアナウンサーの平野啓子さんをお願いすることで、大筋の企画が決まりました。

お蔭様で当日は多くの皆様にご来場いただき、また大きな事故やけが人もなく無事に終了することができました。本当にありがとうございます。

来年のセミナーは「女性」をキーワードに、現在準備を進めております。どうぞ本年以上にご期待いただき、是非ご来場くださいますよう、お願い申し上げます。

民話

をたずねて

連載

石崎敬子

十二支に選ばれなかった
ネコとイタチ



むかし、むかしの大むかし。

正月が近づいたある日、神さまが動物たちにおふれを出したそう
な。

「元旦の朝、新年の挨拶に来るがよい。早く来た順に、おまえ達の名を付けた年をつくってやろう。ただし、十二番までとするから遅れるでないぞ」

動物たちは、このおふれを見て、

「よし、おらの名前を付けてもらうぞ」

と、元旦を心待ちにしていたそう。

大晦日、まだ日が暮れぬうちから牛小屋で牛が旅支度をしておつたそう。

「さて、おらはのろまだからな、今から出かけることにするか」
出発しようとした牛の背中に、屋根裏からネズミがびよんと飛び乗ったそう。そうとは知らず牛は、神さまの御殿へ向かって、夜道をのそりのそりと歩いていったそう。

さて、やつと御殿に辿り着いてみると、なんと誰も来ておらん。

「おお、おらが一番か。これで来年は、おらの年に決まったようなもんじゃ」

牛はにんまりして、門が開くのを待ったおったそうなの。

そのうち、一番鶏の鳴き声が聞こえ、ゆつくりと門が開いたそうなの。

喜んで牛が、中へ入ろうとしたその途端、ネズミがひょいと飛び降りて、門をくぐって行ったそうなの。

「あけましておめでとうございます。ネズミが一番に新年のご挨拶にあがりました」

この様子にウシは目を丸くして驚いたが、どうする事もできん。それで、ウシは二番目になったそうなの。

トラは、千里の道を駆けてきたが、三番目になり、その後は、ウサギ、ヘビ、ウマ、ヒツジ、サル、トリ、イヌ、イノシシと続いて来たところで、門はぴしゃりと閉められたそうなの。

これで、子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥の十二支が決まったそうなの。

ところでネコは、神さまの元へ行く日をすっかり忘れてしまった
そうなの。

「神さまのところへ挨拶に行く日はいつだろう。正月というても、
三が日ある。はてさて、どうしよう」

ネコはネズミのところへ聞きに行ったそうなの。

「そりゃあ、正月の二日に決まっておる。元旦に人様の家に行くも
んでねえと、むかしから言うでねえか」

「そうだな。やっぱりネズミどんに聞いて良かった。ありがとう」

ネコはネズミに何度も礼を言つて、家に帰つていったそうなの。

さて、正月の二日、ネコは朝早く、神さまの元へ挨拶に行ったそ
うなの。

「今頃来ても、もう遅い。十二支は、とっくに決まっておる。元旦
に來いというおふれを忘れたのか。寝ぼけておらんで、顔でも洗つ
て出直してこいっ」

神さまにきつく言われたネコは、すぐそこ歸つていったそうなの。
それからというもののネコは、毎日顔を洗うようになり、嘘を教え



たネズミを見つけると、

「こらあ、おまえのおかげで十二支からはずされたぞ」

と、追いかけるようになったそうなの。

こうしてネコは十二支に選ばれなかったが、イタチも選ばれなかったそうなの。

どうしたわけか、イタチのところに神さまのおふれが来なかったそうなの。それでイタチは、毎日のように神さまの元へ行つては、頼んでおつたそうなの。

「神さま、不公平です。おらだつて動物ですぞ。もう一度おふれを出して、やり直してください」

「やれやれ、そう言われても十二支はもう決まつてしもうた。やり直すわけにはいかん。イタチどん、どうじやろう、一年に十二日だけ、おまえの日をつくつてやるから、それでがまんしてくれんか」
神さまに相談を持ちかけられたイタチは、

「たった十二日ですか」

と、口をへの字に曲げた。

「いやいや、話は最後まで聞くもんじゃ。十二日と言っても、月の初めの縁起のいい日じゃぞ」

「縁起のいい日なら、それで我慢します。毎月初めの日をイタチの日にしてくれるんですね」

イタチに詰め寄られた神さまは、

「うーん、それも騒ぎのもとになる。どうじゃ、イタチの上にツを付けて、ツイタチにすれば、他の動物たちにわかるまい。だが、これは私とおまえの秘密だぞ、よいな」

と、小さい声で答えた。

「ツイタチか。神さま、そのツはどういう意味でしょう」

「ツはひとつ、ふたつ、みつ、よっつ、いつつ、むっつ、ななつ、やっつ、ここのつというように、数を表す時には必ず使うものじゃ」

「そういう事ですか。それならばツイタチでもかまいません。ありがとうございます」

イタチは、深々と頭を下げ、礼を言って帰ったそう。

こうして、月の初めの日を、ツイタチと言うようになったそう。



◆表紙の言葉◆

能素描

春日竜神

かすがりゆうじん

能「春日竜神」は前場、後場の二場の能で、前場は春日明神の老神官、後場は颯爽と登場する竜神のゆたかな舞い働きの面白さが魅力の能である。

入唐、渡天希望の明恵上人は、春日明神に暇乞いに行くと、老神官はそれを押し止め、仏法修業は日本に於いても充分、と諫め、春日山が靈鷲山^{りょうじゅせん}、春日野は鹿野苑^{ろくや おん}にあたると語り、上人が渡海を思い止まるなら、釈迦の誕生から入滅までの一代記を見せようと言って消え失せる。

後場、猿沢の池の竜神が現われ、釈迦の靈鷲山の説法に八大竜王が参集した有様を再現したり、入滅の有様を示し、上人の渡唐断念を確認したのち、大蛇となって猿沢の池に消える。

竜神、竜女多勢が登場する演出もあり、スケールの大きい豪快な能。

表紙画と文

鈴木奈緒

プロフィール	1947年	三岸節子先生に師事
	1950年	女流画家協会展 H 婦人賞受賞
	1983年	秋耕会展 女流会長賞受賞
	1994年	秋耕会展 文部大臣賞受賞
		個展23回開催

金蔵寺詠唱会

江戸川 金蔵寺

金蔵寺のご詠歌：松風や 実りの宝 金蔵寺 弥陀の憐れみ 深き 利根川
私共のお寺は東京とはいっても東のはずれ、すぐ前の江戸川（江戸時代、銚子に水路が変えられるまでは利根川でした）を渡ると千葉県です。

このご詠歌はいつ詠まれたお歌かわかりませんが、念仏講の方々によって唱えられていたようです。その念仏講は、宗派に関係なく定期的に集まり、お経をあげ、お念仏を称え、各寺院に伝えられていたご詠歌・和讃を唱えていました。しかし、一人二人とお仲間が亡くなり、後継者も無く自然と消滅してしまいました。そのお唱えを記録し、残すことができなかったことは、大変残念であります。

お檀家の奥様から「うちの寺でもご詠歌をやってよ」の声で、初めて浄土宗吉水流の詠讃歌があることがわかり、増上寺に通い始めたのが十数年前でした。この有り難いご縁をきっかけにその後、金蔵寺支部が発足し、十三年ほど経過致しました。

土地の人が毎日お参りし、お線香をたむけるお地藏様があります。かつて法安寺という寺のあった所で、そこに住んでいらつしやる家の方々が毎月二十四



平成十一年度御忌詠唱大会
四月三〜四日

日には住職と共にお経をあげ、地蔵和讃を唱えて日々の生活を感謝しています。このような環境の中で金蔵寺詠唱会は、地元六か寺のお檀家さんもまじえて歩み出しました。月二回の練習会は、老僧・住職との勤行と短い法話、そして練習に入り、終わると茶話会で解散となります。

寺の行事にも積極的にご参加頂き、施餓鬼会・十夜会では入・退堂和讃、つきかげのご詠歌、施餓鬼和讃・十夜和讃などを唱えています。特に十夜会の際は、七年前の本堂落慶の時に作りました『金蔵寺和讃』（住職作詩・寺庭作曲）を講員・お檀家と一緒に唱えています。全くの手作り和讃ですが、皆さん大きな声でお唱えできるようになり、感激の一時でもあります。

金蔵寺 和讃

一、覚順上人 開山の 寶徳山は 金蔵寺 室町以来 この土地に

念仏の声 六百年

二、蓮華はちすの上に 半歩出し 慈悲まなこの愛眼で立ちたもう

明るく 正しく 仲良くと 教え導く 阿弥陀様

三、松まつの翠も鮮やかに 銀杏の梢 天をつく、月の傾く西空へ 両掌りょうて合わせて

感謝する 南無阿弥陀仏 阿弥陀仏

春・秋のお彼岸の時は、念仏講が結願の日に金蔵寺に集まって法要に参加した故事にもとずき、最終日に詠唱会・お檀家の方々と共に彼岸供養を致します。



本堂内では詠唱を入れた勤行と、境内の英霊供養塔・水子地藏尊前でのお勤めをします。初めは各々の和讃の歌詞が覚えられず、その上、立ち打ちで大変でしたが、今ではすっかりマスターして立派にお唱えできるようになりました。

一年間のまとめは、やはり増上寺御忌詠唱大会での奉納ですが、行事に追われた練習が多いので、なかなか充分なお唱えができないようですが、皆いつも元気に楽しく参加してくれているのが、何よりも嬉しいことです。

そんな中、長年の希望であった「法然上人二十五霊場巡拝の旅」が昨年十月、四回目で無事成満できました。全二十六曲（二十五霊場＋青龍寺）のご詠歌をすべてこの四年間で練習してきましたが、全部を覚えることは大変でした。各自それぞれに工夫し、努力をして頂き、かなりの成果が上がりました。また、参拝寺院で朱印を持っている間、なるべくご回向を長くしてくださいとのこと、寺でいつもする勤行（二十分ほど）に切替え、経本も持っていないのに皆、声高らかに勤めることができました。これぞ「継続は力なり」を実感し、すっかり感激してしまいました。また、初心に帰って、有意義な参拝旅行を計画したいと考えております。

講員の方から「ご詠歌を習っていて本当に良かった。」「こういう今までに無い、素晴らしい旅行ができて、本当に有り難かった。」「そんな言葉を伺った時、詠唱という仏縁を頂いた有り難さを深く噛みしめております。

この詠唱会がいつまでも続き、たくさんの方々とお念仏に励んで参りたいと思います。

合掌（荒木憲子）



次号は宮城塩金雲上寺です。

記 時 歳 教 仏

午前零時を過ぎると多くの杜寺において篝火を焚いたり、明るく電灯を入れ、初詣の人々の足もとを照らす。

私たち日本人の宗教観は面白いものである。除夜の鐘から、初詣へ。僅かの時間の差で、心機一転する。

石段に一步をかけぬ初詣

虚子

虚子先生はだいぶずばら。

混んでいる様子を見て、石段の下から遙拝と洒落たのだろうが。確かに浅草寺、川崎大師あたりでは本殿に行き着くまでは至難のわざである。

前に行った方がいいが、人波の後ろから賽銭が飛んできて危な

初詣

ということもある。

フード付きのコートなど着ていると背中中のフードに硬貨が入っていたなど、新年早々、笑えるエピソードもある。

星めがけて賽銭投げぬ初詣

青陽人

そこまで頑張らないと届かないとは混雑も凄いものである。

星めがけて投げるとすると、助走もいるだろう。初詣も一種のスポーツになっているのかもしれない。

家族一同とともに、わいわい行くのもいい。懐かしく楽しい光景である。家で年越し蕎麦を食べて、それから皆で出かける。お年寄りに合わせて、元旦、

明るく暖かくなつてから、ゆっくりと行くのもよい。

初詣はらからたちの中にあて

康弘

実感のある句である。この作者は、驚くなかれ、あの中曾根康弘である。

露店もたくさん出ている。温かいものが飛ぶように売れる。甘酒の振る舞いもある。

蛸焼の紅に日のさす初詣

欣一

こちらは俳人。沢木欣一の句である。

紅とは紅生妻のことだろうか。うららかなお正月である。

天下和順し、日月清明なり。風雨、時をもつてし、災厲起こらず。
国豊かに、民安んじて、兵戈用いることなし。徳を崇めて仁を興し
て、務めて礼讓を修す。

〔無量寿經〕卷下

（釈迦仏が赴くその所は）お天氣は穏やかになり、太陽も月も清らかに輝く。時節
よく雨が降り風が吹き、災害や疫病も起こらない。国は豊かに栄え、民の暮らし
は安らかとなり、戦争を起こすこともない。人々は他人のよい所を尊び、思いや
りながら、つとめて礼儀正しくし、また譲り合うのである。

*この一節は浄土宗において祝聖文といい、主に新年を迎える
修止会はじめ、慶祝の法要に際し唱えられる。

理想を掲げよ

研物師のTさんが亡くなったのは三年前の一月のことだった。八十八才。信州のりんご農家にとって欠かせない人だった。というのも、実をなりやすくするために余計な小枝を剪定し鋸で切り落とす。長年愛用の鋸の刃を目立てる達人がT翁だったのだ。

達人であつたが、翁の左手の人差し指はまっすぐに伸びたまま曲がらなかった。昔、腱を切ってしまったのだという。職人技をふるうたびに、やるせない思いが交差したことだろう。

菩提寺副住職の私はこの古老の話を聞くのが楽しみで、先立たれた奥様の月命日のたびにお邪魔をしては、いろいろな昔話をうかがった。若い頃は都市対抗野球に出場するほどのスポーツマンだったが、早くから出征し兵士として幾度も戦地に赴いたそうだ。

戦争のことは多くを語らなかった。それでも、中国と朝鮮の国境近くに進駐したとき、余りの寒さに靴下の中に赤唐辛子を忍ばせたこと。ビルマではパゴダに参拝する人々の信仰の深さに感心し、また捕虜としたイギリス軍将校の毅然とした態度に敬意を抱いたこ

と。連合軍の兵力に圧倒される中、インパール作戦にも加わる予定だったことなど、断片的ながら話して下さった。じつは九死に一生を得て帰還された方だったのだ。

ある時、T家の茶の間に「俱会一处」と揮毫された書が飾られた。阿弥陀経の一節である。家族旅行で京都を訪れた際に求めたカレンダーで、名僧たちの書を集めたものだという。そのなかに知恩院の御門主猊下の書があり、それを額に入れたのだ。「死んだら、みな極楽浄土のお仲間になるのですよ」と説明すると、T翁は我が意を得たりという顔をされ、たまたまT家過去帳に記された無量寿経の一節「兵戈用いることなし」の部分が、以前から何となく気に入っていたんだと教えてくれた。そして、曲がらない指をさすりながら「敵も味方もないさ。兵隊はない方がいいね。この指もちゃんと治せないまま伸びきってしまったんだよ」と呟き、一息ののち、話題を変えるかのようにお茶をすすめて下さった。

T翁の指は、戦地で負傷したものだだったのだ。

經典は戦火も武器も兵士もない平和な理想世界を説く。その世界とは、み仏のお覺りに直接触れられる場であり、煩惱が滅する清浄な仏国土「浄土」のことである。釈迦仏がこの世にお出ましになったときも、そうであつたのだろう。しかし釈迦仏は、もうこの世を去つた。今は、世は乱れ人心も荒^{すさ}んでしまふ末法の時代とされる。けれども、そんな時代だからこそ、理想は高く掲げねばならない。つとめて正しく生きねばならないと釈迦仏は仰せられた。そして、末法の時代の私たちが目指すべき理想世界として、心の拠り所として弥陀の西方極樂浄土を示されたのである。そこに往生した菩薩たちは柔和な心を持ち、決して怒つたり怨んだりしないという。

怒るまい、怨むまい。できる、できないは二の次だ。怒れば怒るほど、怨めば怨むほどに、私たちの心は荒んでくではないか。

曲がらぬ指をさすりながら遠くを見つめたT翁。何があつたか知る由もないが、「つとめて心正しく」と自らに言い聞かせていたに違いない。

(浄土宗総合研究所研究員 袖山榮輝)

連載

『くすり箱』 ⑥

七草がゆ

薬剤師

市川真人

お正月には、お屠蘇を飲み、七日正月には「七草がゆ」を食べて健康を祝い、また、健康を祈る習わしがあります。ゆつくりと食べて、飲んで、くつろいだお正月も終わり、明日から浮かれた正月ともサヨナラをして、普通の生活にもどるという正月の七日に、正月との区切りをつけるため、昔から「七草がゆ」を食べる習わしがあったようです。この七草は、『せり、なずな（ぺんぺん草）、ご（おぎょう）（はは《ほう》こぐさ）、はこべら（はこべ）、ほとけのざ（たびらこ）、すずろ（かぶ）、すずしろ（だいこん）、これぞ七草』と江戸のころより歌われてきた春の七草と

は、この七種類の草をさします。

はぎ（萩）、おばな（尾花・すすき）、くず（葛）、なでしこ（撫子）、おみなえし（女郎花）、ふじばかま（藤袴）、ききょう（桔梗）などの秋の七草は薬用であり、観賞用の草花が多いのですが、春の七草は食用にされ、実用的です。

凍てついた大自然のきびしさに耐え、春の訪れとともに大地を突破って芽を出した七草には、強靱（きょうじん）なる生命力と、ビタミンA、C、カルシウム、鉄分などのすぐれた栄養分、ほろ苦さのなかに解毒作用などをも持ちあわせています。

七種類の野草をお粥に入れて食べるという習慣は、鎌倉時代に中国より伝わって来て、全国に広がって行事化し、現代まで伝わっている、と聞いております。春の七草は現代の栄養学的に見ても、極めて理に適っております。

まず、せりなどが発する香、すずな、すずしろに含まれる消化酵素のジアスターゼは、年末年始とごちそうを食べ過ぎたり、酒を飲み過ぎたりし、ともすれば障害を起こしやすい胃腸の働きをとのえてくれます。七草には骨や歯を丈夫にするカルシウム、血圧を下げるカリウム、貧血を防ぐ鉄分なども豊富に含まれています。また、カロチンも多く含まれていて、粘膜を丈夫にして、風邪などの抵抗力をつけます。さらに、七草にはもたれた胃腸や便秘にいい食物繊維もいっぱいです。

お正月の間は、とかく運動不足になりがちで、しかも、食べ過ぎ、飲み過ぎで消化不良になっていますが、七草を摘むために外へ出

て動き、採った若菜をかゆの中にとっぷりと入れて、明日からの労働の励みにしたものでしょう。

寒い地方ではここに書かれた七草はそろえられなくても、大根やかぶの葉、人参などを代用して、我が家の七草粥を作って下さい。

☆七草がゆの作り方

★材料(約4人分) 米1カップ、水6カップ、塩少々、七草適当量

★作り方

土鍋を利用するといく炊けます。米を洗ってザルにあげ、1時間ほど置く。水に入れて中火にかけ、米がふつくとやわらかくなるまで40分くらいコトコト煮る(途中ではかき混ぜない)。七草はサッと熱湯をぐぐらせ、水気をしぼり、細かくきざみ、火を止める寸前に入れる。塩少々も入れ、約5分位むらしてできあがりです。是非お試しを!



謹賀新年

平成十四年

浄土門主
総本山知恩院門跡第八十六世

中村康隆

大本山増上寺
法主

成田有恒

大本山金戒光明寺
法主

坪井俊映

大本山百萬遍知恩寺
法主

大野忍敬

大本山清浄華院
法主

大田秀三

大本山光明寺
法主

宮林昭彦

大本山善光寺大本願
法主

鷹司誓玉

浄土宗宗務総長

水谷幸正

謹賀新年

平成十四年

大本山増上寺執事長

江口 定信

〒105・0011 港区芝公園四―七―三五

浄土宗東京事務所長

袖山 榮眞

〒380・0805 長野市西後町一五六八 十念寺

〒154・0017 世田谷区世田谷四―七―九

大吉 寺

住職 成田昌憲

平成大事業勸募懇請中
御影堂屋根替大修理完成
阿弥陀堂新築再建着工

美作 誕生 寺

〒790・0002 岡山県久米郡南町里方八〇八
TEL〇八六七 (二八)二二〇二
FAX〇八六七 (二八)二二六二

〒112・0022 東京都文京区小石川三丁目
十四番六号

無量山 傳通 院

TEL〇三 (三八一四) 三七〇一 (代表)

定義如來

西方 寺

〒980・0211 仙台市青葉区大倉字上下一
電話〇一一一 (三九九) 一一〇一一
HomePage: <http://www.johgi.or.jp/>
E-mail: saitohuji@johgi.or.jp

清水湊 貝付毘沙門天

忠高山 實相 寺

〒420・0809 静岡市鷹匠二丁目二十四番十八号

玉桂山 華陽 院

電話〇五四 (二五二) 三六七三
FAX〇五四 (二五二) 三六五六

謹賀新年

平成十四年

学校法人 大乘淑徳学園
淑徳大学 淑徳短期大学
理事長・総長

長谷川良昭

〒154-0665 東京都板橋区前野町五-五-二

淑徳学園中学校・高等学校
校長

大谷壽雄

総本山知恩院
おてつき運動 推進部長

東海林 良雲

塩釜市雲上寺

浄土宗大願寺住職
浄土宗宗議会議員

神谷英敏

〒922-0822 函館市銭亀町一〇-一

花巻 廣隆寺

谷地玄雅

正覚寺

住職 江藤英賢

〒955-0822 武生市京町二-一-八
TEL 〇七七八-二二二-一三一九
FAX 〇七七八-二二二-六二一七

和歌山・西念寺

武田 脩彦

〒642-0811 海間市阪井四六六

宗議会議員

河本真龍

〒738-0801 萩市枅屋町四二-一
電話 〇八三八-二二二-一五八七

謹賀新年

平成十四年

宗議会
議長

熊谷靖彦

佐賀教区本應寺

〈国際局の設置を待望する〉
宗議会議員

浄土宗平和推進協議会副理事長

小田義海

九品院住職
佐世保市大和町一八八一

浄土宗神奈川教区教区長

成田光俊

〒820-0802 鎌倉市材木座六一一七一一九
大本山 光明寺中
電話〇四六七(二二二)二四七六

青森教区
青岩寺

青山浄晃

弘経寺住職

金田進徳

〒920-0802 茨城県取手市白山二一九一八

大蓮寺

蓮池光洋

〒300-0802 前橋市千代田町三三三二四

孤峰山 蓮馨寺
諸願 吞龍上人奉祀

兼原恒久

〒500-0802 川越市連雀町七一
電話〇四九二(三三三)〇四三三
FAX〇四九二(二二六)〇六七六

浄土寺

阿川文正

〒100-0802 東京都港区赤坂四一三二五
電話〇三(三三八)三六二〇

<http://www.josyuya.com/renkeiji/index.html>

謹賀新年

平成十四年

明福寺

福井豊信

〒132-0001 江戸川区江戸川三十八-一

伊勢教区

山下法文

松阪市樹敬寺

愚鈍院 住職
こつぶがや文庫主

中村真道

〒981-0801 仙台市若林区新寺三十二-二十七
電話〇二二(二五五)六〇五七

宗源寺

齋藤价洲

〒110-005 台東区東上野五十一-一六

函館 称名寺

〒040-0808 函館市船見町十八-十四
電話〇三八(二三三)〇五七四

勝願寺

〒520-0808 埼玉県鴻巣市本町八-二二三
電話〇四八(五四一)〇二二七

骨仏の寺

一心寺

〒530-0808 大阪市天王寺区達板二-八-六九
電話〇六(六七七)二〇四四四

晴雲寺住職

塚田弘導

〒591-0808 平塚市立野町六-一五
電話〇四六二(二二二)二六三八

謹賀新年

平成十四年

貞松院住職

山田和雄

〒227-0801 諏訪市諏訪二一十六―二十一
電話〇二六六(五二)一九七〇

願行寺住職

佐藤成順

〒140-0001 品川区南品川二一―十二

梅窓院

住職

中島真成

東京都港区青山
2-26-38
電話 03 (3404) 8447
ホームページ
<http://www.baisouin.or.jp>

鎌倉大仏殿

高德院

〒220-0001 鎌倉市長谷四―一二八
電話〇四六七(二二)〇七〇三
FAX〇四六七(二二)五〇五一

天光院

真野龍海

<http://www.evam.ne.jp/tenkoin>
ryumano@venus.dti.ne.jp

光円寺住職

佐藤良純

〒112-0002 文京区小石川四十二―八

横浜

大光院

〒222-0002 横浜市南区三春台一三九
電話〇四五(二四一)七六七六

浄土宗東京教区教区長
光取寺住職

大室了皓

〒140-0002 品川区上大崎一―五十一
電話〇三(三四四)八三八四

上野の国立博物館で東大の史料編纂所の持っている古文書が展示されている。

大体において博物館好きの私には胸がどきどきする催しであった。私の行ったのは金曜日の午後。混雑を覚悟で行ったのに人影はなぜかまばらであった。一種マイナーな展示とみられたのだろうか。

しかし、私にとっては、面白い展示であった。

たとえば武田信玄が小姓に書いた誓詞などは、大笑いできるものであった。寵童、つまりは信長における蘭丸のごとき、若衆に対して、先夜、もう一人の若衆とは何も無かった。これからも関係は持たない、などと誓わされているのである。

げにおそろしきは嫉妬である。女性より男性のほうに嫉妬深いということもある。

こんな誓詞を書かれた信玄の、そのときの顔を想像するだけで楽しいではないか。

藤原定家の、自分の功績を一所懸命に訴えている嘆願書にも考えさせられた。新古今の編纂などをした、孤高の歌人の印象が強かったが、世俗の論功行賞にこれほど関心があったのか、と思う。

俊成の息子であり、当時の知識人としては拔群の学識を持ち和歌を「幽玄」の域にまで高めた人であった。流浪の歌人、西行にむしろ、世俗の厭味を感じとって認めなかった超のつくイナテリが自らの地位向上をうつ

博物館が好き

佐々木美冬

たえるとは。少しシヨック。鎌倉期以降の文書は多く、島津家に残されたものであった。中央を少し外れたところに貴重な史料が残されるのだな、と妙なところに感心した。

西国の強大な大名から見るとやはり秀吉は小物に見えたらしく、幾つかの文書にはつきりと馬鹿にしたような記述があった。それが、ほんの僅かな時間で今度は墨で消され、改竄されているのもおかしかった。

仏教系の史料は少なく、私としては少し宛が外れたのであるが、最初で最後の公開というにとらしいし、一月には一部入れ替えがあるということ、是非もう一度、今度はゆつくりと足を運ぼうと思っている。

FORUM

浄土の広場

「浄土の広場」では

読者の自由な参加をお待ちしています。

詩、エッセイ、短歌、俳句、川柳、書評、映画評、

TVウォッチング、紀行文、その他創作等。

あるいは会員各寺院での催しの告知、報告など。

どしどし編集部にお寄せ下さい。

浄土誌上句会

●日記

〈特選〉

読み返す日記光陰過ぎやすし

嶋田喜代子

年も暮れに近くなつて、一年の日記を読み返している。ああいうこともこういうこともあったなど、改めて頭に浮かんでくる。一年の何と早く過ぎてゆくことか。歳を取るに従つて切実に感じられる思いである。

〈佳作〉

引き出しの奥より母の古日記

金岩 友江

大売り出し触れて買わざる日記帳

加藤 政男

買いもののついでに買ひし日記かな

増田 信子

●去年今年

〈特選〉

星ひとつまた移りけり去年今年

河合富美枝

除夜詣でもあろうか。人込みの中で空を仰ぐと、また星が流れた。ふり返れば流星雨で騒いだこともあったし、テロに始まる大変

選者=増田河郎子

〈特選〉

鰺を釣る頭上に大きな月の暈

ますだみれい

●自由題

な争いが続いている。こうして新しい年が明けてくるのである。

〈佳作〉

去年今年企業倒産相次ぎぬ

細田 初枝

海女衣まだ竿に掛かりぬ去年今年

井村 善也

去年今年一病大事なる暮らし

浜口 佳春

鰺を釣っている。その頭上には月が大きな暈をかむっている。月が暈をかむると雨が近いという。明日は天気が崩れてくるのではないかと気がかりである。何にしても空の機嫌に任せるほかはない。

〈佳作〉

口切りや塩羊羹の塩加減

片桐てい女

幼な児になすすべもなき障子かな

山本美代子

秋風に揺れる抜けがら女郎ぐも

村山 青女

古き伝統技

三代にわたる信頼

服社
有会

浄土宗法衣専門

古島法衣店

〒111 東京都台東区元浅草4の2の1
電話(03)384221289
振替001802145231

参加作品 編集部選

髪の毛の重みも失せて秋の風
雪吊りや空引きしぼる庭師かな
物乞いの馴染顔来て去年今年
浮雲の移ろい速し去年今年
日記つけ心の扇開きつつ

小久保すずな
細田初枝
佐藤雅子
中島一子
今井恵子

浄土誌上旬会の お知らせ

締切・一月二十日
発表・『浄土』二〇〇二年四月号
選者・増田河郎子(「南風」主宰)
応募方法

③季語ではありません

●いずれの題とも数の制限はありません。
●特選各1名・佳作各3名
葉書に俳句(何句でも可)と、住所・氏名を必ずお書き下
さい。

宛先

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館内
月刊『浄土』誌上旬会係

去年今年句作り苦楽ありしかな
去年今年杖つく夫の笑顔あり
父忌日ページ足らずの日記古る
一病の小康にある去年今年
地下足袋の魚運び女に初しぐれ
日記買う路地の書店は夕映ゆる
秋日濃く呵咩の息の揃いける
秋耕の煙の辺り暮れてくる
白い粉吹いて瘦せゆく吊し柿
同じ日のいつもの書店日記買う
団栗を蹴飛ばしてゆく並木道
温泉湯紅葉の下に検診車
卓上の袋食後の風邪ぐすり
猫帰る腹に付けたる草虱
筑伏せて乾かしありぬ秋日影
己が影うつすのみなり白障子
耳で追う枝の天辺鳴高音

大場 清
鈴木順子
山本のり子
金谷友江
北川弘子
谷しげ子
山口信子
島谷ときを
坂倉左武朗
石原 新
木村和代
小久保草臥
中村みよ子
三橋仁平
池田伊吹
園田郁子
小久保あきを

橋 前 自由題

漫画で楽しい仏教用語

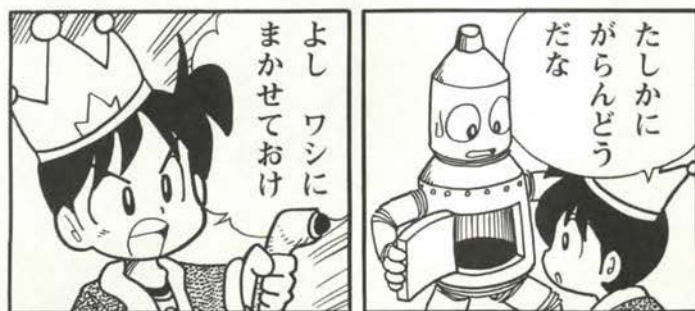
漫画・藤井ひろし

伽藍堂

「がらんどう」と読みますが、意味は中が何も無いこと。

伽藍は僧伽藍を略したもので、サンスクリット語のお坊さんと休憩を合わせた言葉です。つまり、お坊さんたちの住んでいる所となり、仏教寺院ということですね。

この伽藍に堂を付けたのは、どうも日本でのことのように、仏像などを祀っているお堂のことを指します。昔のお寺のお堂は普通の家に比べると、とても大きい上に家具などもなく、広々としていたことから、がらん、そう、何も中がないことをいうようになったのです。



編集後記

なくしたい去年の出来事今年こそ 岱潤

Jフォーラムにて毎月募集している
投句のお題は、読者の側にたっている
ので、いつも二か月早い季語が選ばれ
ている。この「去年今年」も十一月号
にて募集したお題だ。投句をされる方
はいつも二か月も早く詠まなければな
らないのだから、まったく迷惑な話だ
と思う。特にこうした「去年今年」の
ようなお題は、実際は元旦の朝になら
ないと詠めるものではない。誠に遺憾
なことで反省すること大である。

それにしても去年は国内では不況に
よるリストラの嵐が吹き続け、幼児虐
待はますます増え、七月には大阪池田
小学校で残酷な事件までおきてしまっ
た。そして世界では九月のアメリカで

の貿易センタービルの崩壊、ペンタゴ
ンへの突入、あいつぐ炭素菌事件の続
出、そして戦争突入によりアフガニス
タンの悲惨な状況、パレスチナ情勢の
深刻化などなど、余りにも絶望的ニュ
ースが多すぎた気がした。

よく文字のない文化を、低い文化だ
とばかりにする人がいるが、私は武力に
よる解決をするところが低い文化の国
で、争いのない国こそが高い文化の国
だと思っている。今年こそ、高い文化
を誇る国による指導がなされること
を切に望みたい。しかし、そんな国は
世界中にあるのだろうか、二十一世紀
人間はまだまだ悲しい

(長)

次号二、三月号は、二月末日発行となります。

ホームページ <http://www.jodo.ne.jp>

編集チーフ
編集スタッフ

編集顧問

長谷川岱潤
斎藤晃道
村田洋一
佐山哲郎

大宰了皓

浄土

六十八巻 一月号 頒価六百元
年金費六千円

昭和十年五月二十日第三種郵便物認可

印刷 平成十三年十二月二十日
発行 平成十四年一月一日

発行人 真野龍海

編集人 佐藤良純

印刷所 株式会社 シーティリー

〒一〇五〇〇一一

東京都港区芝公園四・七・四明照会館内

発行所 法然上人鑽仰会

電話 〇三(三三七八)六九四七

FAX 〇三(三三七八)七〇三六

振替 〇〇一八〇八・八二八七



道路工事中



消火器



歩行者横断禁止



火気厳禁



止まれ



雷に注意



落石注意、静かに



落石注意



トラック注意



落石注意



落石注意

安心と安全をお届けするのは、
このマークです。



禁煙



落石注意



安全マーク



子供注意



落石注意

ここにあるマークの意味、わかりますか？暮らしの中には、注意を呼びかけるマークが、ほんと、たくさんあるんですね。生活のいろんな場面で、みんなが注意し合って、ルールを守っている。だからこそ、私たちは毎日を穏やかに、安らかに過ごせます。でも、万が一のときのために、覚えておいて頂きたいマークがあります。それは、あなたに安心と安全をお届けする、このマークです。保険のことは、あなたの街にある住友海上代理店へ。

安心と安全をお届けする



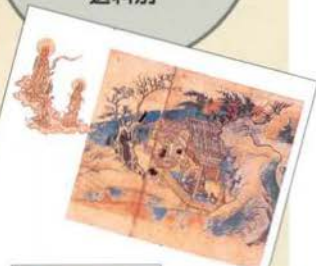
住友海上

〒104-8252 東京都中央区新川2-27-2 TEL:03-3297-1111(大代表)

大本山増上寺蔵・残次二巻本〈重文〉

法然上人絵伝が 絵葉書になった!!

1セット 8枚組
美装封筒入り
定価:800円
(本体+税)
送料別



菩提寺修学の図・牛車
母子の別れと旅立ちの図
菩提寺修学の図・講義
叡山入室の図
後白河法皇に御談義の図
道俗教化の図(立教開宗)
善導和尚来現を拝写せしむる図
阿弥陀三尊影現の図

お申込みは下記まで
発行=法然上人鑽仰会

東京都港区芝公園4-7-4
明照会館内 〒105-0011
電話/03-3578-6947
FAX/03-3578-7036
振替/00180-8-82187

上の絵葉書は実物と多少異なります。